

江南Y E G広報誌

ONE UP!

03
2020

事業報告：2月例会（未来創造委員会）
研修親睦旅行（研修親睦委員会）

事業案内：4月例会

エッセイ：日々を綴る
入川信夫、澁谷威是、奥村真也

事業報告：2月例会（体験事業：チョコレート作り）

日時：2020年2月18日（火） 19:00～

場所：江南商工会議所

講師：ケーキショップ オーブ

代表 森 暁 氏

担当：未来創造委員会



会長挨拶 入川信夫

皆様には、日頃より多くのYEG 事業に参加していただいております。参加されるのは、自己の教養や会社の経営のためではあると思いますが、ある部分では地域、家族、仲間を思って活動されていることもあるかと思います。それは利他の精神を持って活動されているともいえるでしょう。京セラの創業者である稲盛和夫氏は「利他の心」を判断基準とされており、利他の心で判断するからこそ、まわりの協力が得られ正しい判断ができ、自分の能力を最大限に発揮できるという信念をお持ちです。皆さんも社業やYEG活動でそうした経験をされたことがあると思いますが、家庭ではいかがでしょうか？家庭で家族のために振る舞う料理もその一つではないでしょうか。料理をすることで家族とのコミュニケーションも増えるとともに、料理は脳を活性化させる効果もあるそうです。本日の例会では、皆さんと料理をすることによって脳が活性化され、今後も経営者として凝り固まらず、柔軟な判断が継続できるようにするとともに、家庭円満の一助としていただきたいと思います。

委員長趣旨説明 坪内正幸

本例会を通じて普段することない体験をし、自身のスキルをまた一つあげていただく。メンバー各自のスキルが上がれば組織全体のスキルアップに繋がると考えます。またメンバー同士で貴重な経験・体験する時間を共有することにより親睦を深め、今後のYEG活動を円滑に進めて行く一助とします。



堂々と例会説明をされる坪内正幸委員長

体験



慣れない場所での作業に、森氏も苦勞されたのでは？

今回はメンバーでもある江南市飛高町でケーキショップを経営する森暁氏にチョコレート作りを指導していただきました。チョコレートと言うと、ただ溶かしたものを型に流すだけだと思いがちですが、実はテンパリングという重要な作業を加えることによって美味しく綺麗なチョコができるのです。テンパリングには温度管理と混ぜる技術が重要。お玉1杯分のチョコを混ぜる作業に、おじさん達の腕が悲鳴をあげます。完成したチョコは家族のお土産に。普段できない体験ができました。チョコ作りとテンパリングを家族とのコミュニケーションツールとしても是非ご活用ください。



事業報告：研修親睦旅行

場所：滋賀・京都

日時：2月15日(土)、16日(日)

担当：研修親睦委員会



本年度の研修親睦旅行では、滋賀県の長浜商店街・黒壁スクエアを視察してきました。講師として長浜商店街連盟の澤田正弘会長にご講演いただき、商店街の再建についてご教示いただきました。長浜商店街は、1980年頃から街の衰退に歯止めをかけるために、街の文化を売りにする「街の博物館構想」のもと、商店街を昔の「町屋」をイメージした再開発を行いました。また1989年には明治の建物「黒壁銀行跡」を「本物のガラス文化を長浜から」という

コンセプトで、ガラス工芸を中心とした街おこしを始めました。それらが功を奏し、地元のお客様ではなく観光客を対象とした商店街として見事に再建されました。現在では、大型店が生活の売り場として活用されるようになってしまい、商店街は食品・日用品では太刀打ちするのは難しい状況です。商店街の再生ができるとすれば、町の文化を作り出し、観光客を楽しませるような開発が必要なのかもしれません。



長浜商店街連盟の澤田会長にご講演いただきました。

また、京都にも立ち寄り、日本有数の神社仏閣を訪れ、深い歴史と文化にも触れてきました。小雨が降る生憎の天気でしたが、勉強になる2日間でした。



案内：4月例会

場所：江南商工会議所 1階ホール

日時：4月21日(火) 19:00～

テーマ 「愛知県連について」

講師 春日井商工会議所青年部 安藤宜史氏

テーマ 「AT(エンジェルタッチ)の活用法」

講師 春日井商工会議所青年部 金田信作氏

担当：県連出向委員会

※服装については自由です。

懇親会

場所：江南商工会議所 1階ホール

時間：～21:45

登録：5,000円

出欠席の回答は

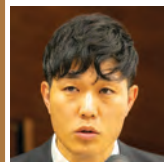
4月10日(金)までに必ず

事務局(小松)へ御連絡下さい。

編集後記

鈴木 馨

(広報渉外委員会 委員長)



本年度の広報誌は、文字で伝える「読み物」を意識して編集してきました。毎月の発行は、モチベーションを維持するのが大変で、「そもそも読者はいるのだろうか？」と疑心暗鬼にもなりましたが、例会開始前にメンバーが広報誌に目を通して様子を見ては胸を撫で下ろしました。

企画である「日々を綴る」では、メンバーの皆さんにエッセイを投稿いただきましたが、人それぞれに個性があり、「人となり」を垣間見ることができました。我ながら素晴らしい企画であったと思います。また、皆様お気づきかと思いますが、広報誌では例会での「会長挨拶」を丁寧に文字起こししてきました。入川会長は、毎回例会の内容に沿った時事問題や経済情報をうまく絡めてお話しされています。天性の才能か、それとも準備と努力の賜物なのか、私は素直に毎回感動します。

広報誌のバックナンバーは、今後もホームページで読み返すことができます。本年度の活動の記録として、また読み返していただければ幸いです。

facebook (会員限定) にて写真・動画の活動報告をしています。
登録方法は担当鈴木馨または各委員長まで

ONE UP! 3月号 発行日：2020年3月17日 (毎月第3火曜日)

担当記者：鈴木馨、奥村真也

編集・発行 江南商工会議所青年部 広報・渉外委員会
〒483-8223 江南市古知野町小金 112
tel.0587-55-6245 fax.0587-54-9141
URL <http://www.konan-yeg.com/>

ひびつづ 日々を綴る

仕事、家庭、趣味、e t c...

江南Y E Gメンバーの自由なエッセイ

1年間ご愛読いただきありがとうございました。



新の地から真の地へ

入川 信夫 (会長)

年度も終わりを迎え今日に至るまでを振り返ってみた。生まれも育ちも名古屋の自分が江南で生かされている。思い返せば高3の夏、どうせならツレの住んでいる近郊で就職しようと思い、通っていた学校に届いた求人案内の中から県内で寮が有り、「南」の字が付く所に所在地を持つ会社をかき集め自宅に持ち帰った。当時、夜勤のバイトをしていたので、親に「何社か良さそうな会社見といて。」と伝えてからバイトへ、翌日帰宅したら机の上にピックアップされた書類が置いてあったので早速会社に電話した。大工に成りたいと伝えると「現場監督を募集しているけどまた連絡します。」と

言われ電話を切った。監督になるつもりは無かったので他を探そうと思い、また別の会社を選んでいたら直ぐに折り返しの電話が鳴った。「一度会って話がしたいので家に伺います。」との事だった。数日後、当時の社長と常務に訪問頂き話し合いをした結果、大工として雇って貰える事と成りその場で内定が決まった。数か月後「建て前が有るので会社訪問がてら見学に来て下さい。」行き方を聞くと「犬山線に乗って江南駅で降りて待ってるように」と言われた。

ん?...犬山線?...逆やん! (「□」;) !!
そう、無知な自分は江南市=南の方にある町だと思っていたのだった(-_-;)。既に募集期間はとっくに過ぎており、今更他を探すわけにもいかず、そのまま就職し今に至る。新しい地に移住して26年、人生の半分以上を過ごし多くの経験と多くの仲間に出会わせてくれ、家族にとって故郷である真の地「江南市」に恩返しをしていけたらと思う。



これまでとこれから

澁谷 威是 (直前会長・監事)

どんな組織かもよく知らないまま、とある先輩にお願いして江南Y E Gへ入会しました。知らない人ばかりの中で何をしたいのか分からず「委員会と事業はできる限り参加。役を頼まれたら即答で受ける事。」先輩にそれだけを教わり、幹事・委員長・副会長・専務...組織論もなく組織に対する理念や信念もない。声をかけてくれた人やメンバーの為、がむしゃらに活動する事が僕の中の正義でした。

会長を拝命し、特定の人ではなく組織の為に行動することを迫られた時、「そもそもY E Gって何だろう?この先どうあれば良いのだろう?自分は

どうしたいのだろう?」正解のない答え探しが始まって、自分なりの答えを出した時から、青年部に属する全メンバーへの景色が変わり、ちょっと面倒な人間になった気がします(苦笑)。どう見えるようになったのかは内緒ですが、これからは自分を成長?変化?させてくれた組織の為、少しずつだけ恩送りして行こうって思ってます。

今回執筆する機会を頂き初めて過去の自分を思い返すことが出来ました。正直な所、仕事にも家族にも沢山迷惑をかけてしまったと猛烈に反省しています...ただ後悔していないだけに、この先もこのままなんだろうなあ。



とある先輩



何のために行くのか

奥村 真也 (広報・渉外委員会)

私は昨年30回ほど山へ入りました。その山の中では燕岳から常念岳へ向かういわゆる表銀座なる山行が最高でした。途中山小屋に1泊し2日間で20kmを荷物を背負い歩きます。この山行は、日頃全く運動をしない私にとって肉体的にとっても厳しいです。周りからは、「そんな辛い思いをするためになぜ山へ行くのか?」って聞かれます。私自身その質問に対する明確な答えは持ち合わせておりません。ただ、私が山に入って感じるのは、その山や木々の緑などの自然が映し出す景色を捉える「視覚」、木々や土などから出る「嗅覚」、そして風やその

風によって枝々が擦れ聞こえる「聴覚」。それらがとても心地良いのです。この自然の中にとくと、時間に追われる毎日を忘れ、心の洗濯がされ、気持ちがニュートラルになるような思いがします。この非日常を感じる為に山へ行くのかも知れません。こうしたことは低い山でも味わうことができますので興味ある方は試しに近隣の山へ登ってみてください。とっても気持ちいいですよ! たぶん・・



TK&TJと共に